

令和 5 年 5 月 24 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14124

研究課題名（和文）マレーシア留学がもたらす「国際移民システム」の展開 後発途上国出身者に着目して

研究課題名（英文）Application of systems approach to international migration through studying abroad in Malaysia: Focusing on migrants from least developed countries

研究代表者

金子 聖子 (Kaneko, Seiko)

東洋大学・国際学部・准教授

研究者番号：50738903

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、新興国マレーシアの留学生による「国際移民システム」の構築に着目して国際留学生移動を分析することである。開発研究において移民のホスト社会への統合は出身社会とのつながりの喪失を意味し、移民による開発への貢献は帰還によってのみ実現すると考えられてきた。本研究では、元留学生が築く社会的ネットワークが、出身国にとって外部資源へのアクセス増加に寄与し得ることを示した。また国際移民システムの多角的な検証のため先進国から新興国への人の移動にも着目し、二重の「複合社会」のもたらす肯定的な側面を国際留学生移動の新たなパラダイムとして提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「周辺」と見なされた国の高等教育機関が、同じく「周辺」の国から多数の留学生を受け入れ、定着させることによって出身国の開発を促進する側面があること、また「中心」的な国から「周辺」的な国への留学生受け入れによって、二重の「複合社会」が肯定的な側面をもたらす得ることを、国際留学生移動の新たなパラダイムとして提示した。

また社会的意義として、国際教育の促進は、社会背景が異なるとはいえ、日本等の非英語圏にとっても参考になる上、今後マレーシアのような国が、日本人高校生・大学生の留学先という意味と同時に、留学生受け入れ国日本の競合相手という意味でも、新たな選択肢として浮上してくる可能性が示唆される。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to analyze international student mobility, focusing on the structuring of the "Systems approach to international migration" by international students in an emerging country, Malaysia, with an emphasis on the background of their country of origin. In development studies, the integration of immigrants into host societies has been considered as the loss of ties to the society of origin, and the contribution of immigrants to development has been considered to be realized only through return migration. This study shows that the social networks established by former international students can contribute to increased access to external resources for their countries of origin. I also focused on the mobility of people from a developed country to an emerging country to examine the Systems approach to international migration from multiple perspectives, and presented the positive aspects of the dual "plural society" as a new paradigm for international student mobility.

研究分野：比較教育学

キーワード：国際留学生移動 高等教育 トランスナショナル移民 社会的ネットワーク 学位取得型留学 ライフストーリー・インタビュー マレーシア バングラデシュ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

移動手段や通信技術の発達により、世界中で人々の移動が日常的に行われるようになった。国際移民には様々な形態があるが、学生移民すなわち留学生は、教育を主目的として国境を渡る唯一の移民である。しかし学生移民の場合、教育・研究以外の目的が想定されていないかという点、そうではない。近年では、留学終了後も留学先に滞在し続け職を得たり、永住民になる元留学生が急増している。この背景には、主な留学生受入国である欧米先進諸国において少子高齢化に伴う労働力不足が進み、留学生を潜在的な高度人材ととらえる考え方が加速していることがある。

国際留学生移動研究は盛んに行われているが、上述のように留学目的と就労目的の国際移動の境界が曖昧になる中で、送り出し国の文脈に即した研究や留学生移動と国際労働力移動の関連付けの不足、元留学生を開発のアクターととらえる視点の欠如、そして先進諸国留学に関する研究への偏重が先行研究の課題として挙げられる。

これら国際留学生移動研究の課題を解決するため、本研究では「国際移民システムアプローチ」を留学生が移民となる過程に援用する。国際移民システムは、移民のネットワークそれ自体が一つの社会組織として発展し、自律的な社会システムだとする考え方である (Kritz et al. 1992)。例えば中国からの留学生の増加や滞在の長期化現象においては、日本と中国、さらには欧米等の関係諸国も含む、政策・経済・社会的なネットワークが形成され、一つの移民システムとして機能していることが先行研究で述べられている。

マレーシアは、受け入れ留学生数が過去 20 年間で 40 倍近くも急増し、先行研究でも教育ハブを積極的に推進する国として挙げられていることから、新興受入国として焦点を当てるのにふさわしいと考えられる。マレーシアはその文化・社会・言語的近似性から、以前は中国、インドネシアからの留学生が大半を占めたが、現在では多様化が進み、主に南アジア、中東、アフリカ諸国からの留学生を多く集めている。このため本研究では、従来よりマレーシアに多くの留学生を送り出し、近年ではトップ送り出し国となり、高度人材への移行も多いバングラデシュを主な対象とする。

一方 UNESCO によれば、マレーシアの受け入れ留学生の中で、出身国上位 30 カ国において唯一、先進国として日本が 21 位に位置している。日本側から見た送り出し先という観点からも第 9 位を占めている。アルトバック(1994)は、従属論・新植民地主義論の視点から、高等教育に関して「中心 周辺」(center-periphery)理論を提唱し、中心的な大学は例外なく高い経済水準にある主要国に位置しており、他方で周辺の大学は全てではないものの周辺国家にあるとした。国際留学生移動の多くは周辺の国から中心的な国に向かって起こっているとされてきたが、国際移民システムをより多角的に検討するため、本研究では日本からマレーシアへの学位取得留学という、先進国から新興国への人の移動にも着目する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、新興国マレーシアの留学生による「国際移民システム」の構築に着目し、出身国の背景に着目して国際留学生移動を分析することである。開発研究においては、移民のホスト社会への統合は出身社会とのつながりの喪失を意味し、移民による開発への貢献は帰還によってのみ実現すると従来は考えられてきた。しかしながら現在では統合がむしろトランスナショナルな関与を後押しするととらえられている。開発を推し進めるアクターである途上国政府や国際機関も、帰還だけでなく移住先でのトランスナショナルなネットワークの形成を重要視していることから、本研究では元留学生をトランスナショナル移民ととらえ、開発に寄与する肯定的なアクターとしてとらえ直すことを目指す。

3. 研究の方法

(1) 文献調査：国際移民システムおよび隣接する移民理論についての文献を調査する。また送り出し国の経済社会政治情勢、高等教育事情に関し、1970 年代頃～現在についての資料収集を行う。

(2) 現地およびリモートでの調査：マレーシアに滞在を継続、または第三国であるオーストラリアに移住した元留学生に、ライフストーリー・インタビューを実施し、元留学生のキャリアや移民としての日常生活、マレーシアにおける社会的統合の実態等を明らかにすることを試みる。新型コロナウイルス感染症の影響で現地調査が困難な時期は、オンラインによるインタビュー調査を代替的に実施する。

4. 研究成果

以下に示す研究成果は日本比較教育学会、国際開発学会、グローバル人材育成教育学会にて発表するとともに、『国際移動時代のマレーシア留学：留学生の教育から職業・移民への移行』として2023年に明石書店より出版した。

(1) 留学生の築く社会的ネットワークの開発への寄与

バングラデシュからマレーシアへのマクロな留学生の流入を考察するために、まずは両国の教育に関わる背景を検討した。両国の高等教育にかかる共通点(宗主国イギリス、国教イスラム、独立時の高等教育未発達、私立高等教育機関の勃興)および相違点(力点を置く教育レベル、就学率)を明らかにした上で現地調査を実施した。

インタビュー調査の結果から、バングラデシュ人元留学生のマレーシア社会への同化・同調は表面的にはほとんど見られなかった。先行研究において中国人元留学生が、日本社会の価値観や人間関係を内面化するのとは全く異なる結果が導き出された。元留学生からホスト社会に同化・同調するような言説が見られなかった理由として、元留学生が有する一時的な滞在という認識、単純労働者を表象するバングラデシュ出身者に対する差別的な認識による同化の困難さ、現地語の未修得、主流社会(現地企業等)における不在または不可視化を論じた。

多民族国家マレーシアにおけるコスモポリタン・マルチエスニックな社会規範の内面化によって、元留学生が共通語である英語の駆使、高度外国人材にとっての不利な条件下での就職を成し遂げ、結果的に長期滞在を果たしていることは、それ自体が送り出し国にとって有益な機会であることとらえることができる。マレーシアで学んだ元留学生が築く社会的ネットワークは、出身国にとって外部資源へのアクセス増加(Meyer 2001)に寄与し得ると考えられる。

送り出し国の高等教育事情への着目により、バングラデシュで中等教育が拡大し高等教育も大衆化していく中で、中等教育修了後または学部卒業後に海外留学を志す者は増加の一途をたどると推察できる。一方のマレーシアでも同時期に私立大学が認可され、学士課程の教育を英語で行うことが可能になったことで留学生が急増し、さらには親の仕事でマレーシアに滞在する、いわば「2世」の留学生も大学進学が可能になった。社会的ネットワークを通じ移住がより多くの移住を引き起こすことは主に労働移動を前提に議論されてきたが、留学を目的とした移住もこれに当てはまり、こうした流れが今後も続けば、外部資源へのアクセスは加速度的に増加し、スキルや専門性の循環を通じた開発の促進が期待できると結論付けた。

(2) 「複合社会」のもたらす肯定的な側面としての国際教育

日本からの留学生にとっては、先行研究で見られたような日本社会からの現実逃避型や欧米留学の譲歩・妥協型ではなく、積極的に選び取ったマレーシア留学において、アジア軸の確立、日本の昔の姿が見出せる希少性、国際関係観の変容等が得られた上に、マレーシアの持つ独自性から国際的な学びが促進されたことが明らかになった。

多民族国家マレーシアについて、各エスニック・グループが隣り合わせで生活しながら、お互いに交じり合うことのない「複合社会」とファーンバル(1939)が評したが、そこへさらに留学生や外国人労働者が大量に流入することによって、二重の「複合社会」が形成されていることを杉村(2017)は指摘している。

各エスニック・グループは独自の文化・言語を有しており、熾烈な競争状態にある民間の高等教育では、しばしばエスニック間の駆け引きが先鋭に表れる。本調査の結果から、マイノリティである中華系やインド系が教育機会を求めて切り開いてきた民間の高等教育機関における英語世界と、国立大学におけるマレー語世界にそれぞれ生きる日本人留学生の生活世界は、上記の「複合社会」をまさに表象していると言える。ただし先行研究では、マレーシア国民と留学生・外国人労働者との間の不平等、断片化の促進という「複合社会」の創り出す負の側面に焦点を当てられてきたが、本研究では二重の「複合社会」によって、国際教育にとって肯定的な側面がもたらされていることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 金子（藤本） 聖子	4. 巻 9
2. 論文標題 日本人の留学先としてのマレーシア（先進国から新興国への学位取得を目的とした国際移動）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル人材育成教育研究	6. 最初と最後の頁 1～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34528/jagce.9.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Seiko Fujimoto-Kaneko	4. 巻 11
2. 論文標題 Malaysia as a Center of Brain Circulation: Trajectory of Former International Students in the Information Technology and Academic Sectors	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 US-China Education Review A	6. 最初と最後の頁 139-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.17265/2161-623X/2021.04.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Seiko Kaneko	4. 巻 6
2. 論文標題 How studying abroad in Malaysia leads to transnational migration: Interview results from former international students	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Osaka Human Sciences	6. 最初と最後の頁 107-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/73803	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金子（藤本） 聖子	4. 巻 31
2. 論文標題 マレーシア留学における社会的ネットワークの外部資源としての役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 61～76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32204/jids.31.2_61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Seiko Kaneko
2. 発表標題 Study in Malaysia for Degree Acquisition of Japanese Students: Considering the Value beyond Area Studies
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seiko Fujimoto-Kaneko
2. 発表標題 Studying abroad viewed as international human resource mobility: Focusing on former international students in Malaysian IT and academic sector
3. 学会等名 12th Biennial Conference of the Comparative Education Society of Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子(藤本)聖子
2. 発表標題 オンラインによるマレーシア海外英語研修におけるパディの役割ー日本人参加者の視点からー
3. 学会等名 グローバル人材育成教育学会第9回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seiko Kaneko
2. 発表標題 Former international students as skilled human resources in Malaysia: Reconsidering their peripheral position
3. 学会等名 国際開発学会第31回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seiko Kaneko
2. 発表標題 The process of international students becoming skilled human resources in Malaysia: An application of the systems approach to international migration
3. 学会等名 Joint International Conference 2019 of Japan Society for International Development and Japan Association for Human Security Studies
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子 聖子
2. 発表標題 マレーシアにおける難民の学習環境 クアラルンプール近郊のコミュニティセンターの多様性
3. 学会等名 国際開発学会第33回全国大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 金子 聖子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 192
3. 書名 国際移動時代のマレーシア留学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関